

## 2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 金沢星稜大学 ] 担当教諭名 [ 清水 和久 ] ( 講義:国際教育・国際演習 16名 )

相手国・地域 [ フィリピン ]

海外学校名 [ Mindanao Kokusai Daigaku ] 担当教諭名 [ 井上 直之 ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	国際教育(講義)	開発途上国の現状の理解と日本との関わり	16
	国際教育(演習)	MKD の学生と仲良くなろう	9
	課外	星稜ジャンププロジェクト	14

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	テロが起こらない世界にすることができること
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	テロ事件によって両校の直接交流は中止となった。テロが起こらない世界にすることでどうすればよいかを考えた。両国の象徴として国鳥が、今後力を入れていくべきことを描いた垂れ幕を引っ張り、その幕の中心に両国の指導者の姿を描いた。今後は、教育やスポーツなど人々の融和を図るために取り組まねばならないことがある。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・星稜大学生のフィリピン行が直前に中止となったことでテロが起こらない世界をどのように実現するかという共通テーマに繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期の講義は前期の7月までであるため、後期の活動を有志による課外の活動になり、日本側は人数が減り、深い学習がむずかしい。</li> <li>・訪問がなくなったため、体験に基づいた相手国について描くのをやめ、自国の課題を描く事となった。</li> </ul>

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

学生の意識の変化	教師の意識の変化
<p>これまでの3年間は、毎年現地訪問ができていたのであるが、今年はテロ事件があり中止となった。その分テロの起こる原因について考えることができた。テロを起こさないためには教育が必要であり、お互いを認めるためには1つの価値観だけではなく、マイノリティー(LGBT)を認め、オリンピックで相互理解できるチャンスであると考えられるようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問できなかつたのは大変残念であったが、タイムリーに安倍首相の現地大学の訪問があり、ドテルテ大統領とも会談したので、より身近に感じた。</li> <li>・日本からは行けなかつた分、交流が浅くなってしまった。しかし、壁画を描くことで一体感は持てた。</li> <li>・同一校と4年連続の交流となり、互いの国の課題をベースとして切実な問題を扱う重要性が認識できた。</li> </ul>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	学生の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の現状について知る</li> <li>フィリピンボランティアへ行っていた学生の話聞く</li> <li>フィリピンについてのレポート</li> <li>自己紹介ビデオの作成</li> <li>留学生との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の貧富の差について知ること、知ることの重要性を理解する</li> <li>留学経験のある学生の話やフィリピンからの留学生と実際に会うことで、その国の状況を知り、訪問したい思いが強まる。</li> </ul>	国際教育講座
共有 テーマ学習	9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月は夏季休業中のため日常活動はなかった。</li> <li>訪問が中止になったことで、遠隔交流のみへと切り替える</li> <li>TV会議で今後の打ち合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問計画が中止となった原因のテロについて考え、そのテロを起こさないためには、知識や人々の融和が必要であると考えた。</li> </ul>	放課後の活動3
融合 メッセージ 壁画デザイン	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>下段にテロ事件や、互いの国で問題になっていることを描き、その問題を解決するための方法を描くことをTV会議で提案</li> </ul>	テロを防ぐために考えたことは、教育、スポーツ、笑い、融和、LGBT、再生可能エネルギー	放課後の活動4
創造 壁画制作	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>TV会議で決まったことをもとに壁画の作成をする。</li> <li>週に1回、学生が自主的に集まり、作成</li> </ul>	6人の残ったメンバーの6人で作成、教員を目指す学生なので絵もうまく、集中力もあった。	放課後の活動10
評価 振り返り 自己評価	3月	3月20日に壁画が戻る予定休業中のため、観賞会は4月以降に実施	未実施 SNS等で届いたことは伝えてある。	放課後の活動

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	訪問が中止にならなかった分、日本の課題と対策を考えることができた
異文化の理解	A	3	フィリピン訪問が中止になったため、十分ではなかった。しかし、同世代の交流の重要性を知った
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	壁画の下書き用の提案の説明ビデオが作成できた。 ペアーを決め SNS 等で個別に交流が進んだ
情報活用能力 (情報収集・発信)	C	4	フォーラム自体に学生が直接書き込みをするのは、難しい個別の表現手段(SNS)がある学生にはあまり必要感がない
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	B	4	国内においては自主的に集まり壁画を作成することができた 5 相手とはペアーによってまちまちあった 3 平均で4
協働する力 (役割分担・協力)	B	4	できた作品を見ると対テロの対策という点で協働をかんじることができる
学習を追究する意欲	A	4	前期の授業でレポートを課し、十分相手国のことを調べた。また実際に訪問予定であったので真剣であった。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	A	5	必要感に迫られたテーマであったので、絵の表現としてはとてもいいものになった。平和の重要性を感じた
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	B	4	現時点では未実施のため、今後実施する予定 予想になるが観賞により、高い自己評価が期待できる